

# 知事記者会見の概要

日 時：令和6年11月28日(木) 10:00～10:36

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 代表質問

- (1) 空港滑走路延長に係る将来ビジョンについて
- (2) 7月25日からの大雨災害について

### フリー質問

- (1) 大関・琴櫻関の初優勝について
- (2) 代表質問1に関連して
- (3) 大雨災害被災地域への防寒対策について
- (4) 県議会12月定例会への対応について
- (5) 知事のSNS活用について

<幹事社：毎日・産経・YBC>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。本県ゆかりの大関・琴櫻関が見事初優勝を果たされたこと、本当にこれは大変喜ばしいことでありました。県民みんなが心待ちにしていたというふうに思っております。

大関は、来場所も、上を目指して、益々ご活躍いただきたいというふうに思っております。

それから、山形冬の観光キャンペーンについて申し上げます。

県内では最高気温が1桁台の日も見られ、先日、天元台高原スキー場がオープンするなど、平地でも冬の足音がすぐそこまで聞こえてくる季節となりました。県では、冬の観光誘客を図るため、「冬こそ、やまがた ～心ほどける、冬～」をキャッチフレーズに、来週12月1日から3月31日まで、山形冬の観光キャンペーンを開催いたします。

このキャンペーンでは、県内各地の雪まつりや温泉、冬のグルメ、スノーアクティビティなど、こちらのポスターやお手元にお配りしたリーフレット、そして特設Webサイトなどにより、国内外に発信してまいります。

リーフレットにも記載しておりますが、特に、今年7月25日からの大雨被害の復興に向けて、年末年始を除き12月16日から、最上地域、庄内地域の宿泊施設への宿泊を対象に、1人あたり1泊3,000円割引となる「冬こそやまがた 最上・庄内泊まって応援キャンペーン」を実施いたします。県内各地の冬のスポットを巡り、スマートフォンでスタンプを集めると抽選で豪華特典が当たる「冬こそやまがた電子スタンプラリー」を実施し、県内周遊を促進してまいります。

また、チラシをお配りしておりますが、12月7日に、「やまぎん県民ホール イベント広場」におきまして、「『ラーメン県そば王国』フェスタ in やまがた」を開催し、本キャンペーンを盛り上げてまいります。フェスタでは、本県の特徴あるラーメン・そばが8ブース出展します。そのほか、「ラーメン県そば王国やまがた」ロゴマークの最優秀作品も発表いたします。

この機会に、国内外の多くのお客様に山形を訪れていただき、ゆったりと“こころほどける、冬”を堪能していただければと思います。最上地域、庄内地域の宿泊施設もみんなで応援してもらえたらなと思いますので、よろしく申し上げます。

私からは以上です。

## ☆代表質問

### 記者

幹事社の山形放送の大矢です。よろしくお願いいたします。大きく2点質問させていただきます。

まず、空港滑走路延長に係る将来ビジョンについてお伺いします。山形空港と庄内空港について、県は先日、滑走路を延長した場合の概算事業費をそれぞれ示した上で、将来ビジョンの検討会を開催しました。検討会では、滑走路延長を求める意見もあった一方で、必要かどうか慎重に検討すべきとの声や、他に優先すべきことがあるとの声も聞かれました。巨額の事業費が見込まれることや検討会で出た意見について、知事の受け止めと将来ビジョン検討にどのよ

うに生かしていきたいかをお聞かせ願います。

知事

はい、ではお答えいたします。先日、山形空港と庄内空港におきまして、空港将来ビジョン検討会を開催しました。有識者や商工分野、観光分野、自治体、特に若者も入れた様々な立場の方々から幅広いご意見を頂戴して、大変有意義だったと報告を受けております。

若い人からの意見としましては、山形空港ですけれども、「空港内の展示スペースの充実」や「若者や外国人が集まるコンテンツを入れ込むこと」「SNS を通じた情報発信なども有効」というご意見がありました。また、庄内空港では、「加茂水族館など地域の観光施設とのコラボレーション」というご意見など、両空港の魅力向上につながるような様々なご意見をいただきました。

この他、両空港では、滑走路延長を期待する意見がある一方で、多くの費用がかかることから、慎重に検討すべきという意見もいただきました。また、駐車場につきましては、無料であることが魅力である一方で、有料化も検討すべきではないかというご意見もいただいたところですが、これらのご意見は、今後、将来ビジョンを検討していく上で、大変貴重な材料になるものと考えております。

滑走路の延長につきましては、大変大きな費用を要することから、財源や費用対効果、国庫補助制度の活用のほか、防災拠点としての活用の可能性や、地域住民への対応など、さらに検討する必要があると考えております。

県としましては、来年度以降、将来ビジョン検討委員会を設置して、今回の検討会でいただいたご意見を参考に将来の空港のあり方に関する議論を深め、将来ビジョン策定に向けて、前に進めてまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。

2点目なんですけれども、先ほども知事おっしゃっていた7月25日からの大雨の被害について、7月の大雨から4か月が経過した所感と、農業に関してですね、国が費用の約9割を負担する災害復旧事業について、市町村と生産者の費用負担の割合が市町村によって異なるという生産者の声もあったんですけども、そういう課題もあるということで、県としてどのように対応していきたいか、この2点お伺いします。お願いします。

知事

はい。7月25日からの大雨災害から4か月が経ちました。

災害発生以降、市町村、消防、警察はもとより、自衛隊や政府機関の迅速な対応や、企業や団体、ボランティアの方々からも多大なお力添えをいただきました。ここであらためて、深く感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

この大雨災害では、道路や河川などの土木関係施設、住家等の建物、農作物や農地、農業用施設などに、過去最大となる被害が発生しました。

私自身、現場に何度も足を運んで、被災された方々から直接お話をお聞きしました。そして、被災市町村の首長さん方からもご意見をお聞きしました。一緒になって政府要望を行いながら、災害復旧事業や被災者の生活再建支援などについて、一日も早い復旧・復興に向けて、全力を挙げて、現在取り組んでいるところでございます。

災害査定につきましては順調に進んでおりまして、年明けからは本格的な復旧工事に着手する見込みとなっております。

また、市町村では、仮設住宅等に入居されている方を訪問し、健康管理を行っており、県としても市町村からの相談に応じるなど、被災者の皆様に寄り添った支援を行ってまいります。

この災害を受け、あらためて、県民の皆様の命を守ることを第一に、引き続き、ハード・ソフト一体となった防災・減災対策に取り組みますとともに、地域の防災力強化に向け、しっかりと取り組んでいくことが重要だと強く感じております。

なお、来週から12月に入り、雪の季節となります。復旧・復興作業に従事される皆様をはじめ、県民の皆様には、雪害事故防止対策を十分にさせていただきたいというふうに思っております。

2点目の農業関係の災害復旧事業についてのお尋ねですけれども、政府の災害復旧事業を活用した農地や農業用施設の復旧にあたりまして、生産者が負担する部分について、市町村によっては一部または全部を支援していると聞いております。

このような上乗せ支援につきましては、被害の実情などを踏まえ、それぞれの市町村でご判断されたものと考えております。

一方で、県としましては、政府の災害復旧の対象にならない小規模な農地等の被害に係る復旧や、農機具の修理・再取得、農業用ハウスの復旧などに対して、県独自に、市町村と協調して支援をしているところであります。

引き続き、市町村や関係機関と連携しながら、政府の支援が行き届かないところにきめ細かな支援を行い、農業の復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございました。幹事社からは以上です。

☆フリー質問

記者

おはようございます。NHKです。

まず、一番最初に、琴櫻なんですけれども、期待して頑張ってもらいたいところなのですが、何を目指してどういうふうに頑張ってもらいたいのか、あと琴櫻のどういうプレースタイルが知事は好きか、お気に召しているかなどあれば教えて下さい。

知事

はい。もちろん、やはり頂点である横綱を目指していただきたいというふうに思っていますね。

どういうところが好きかというのは、そうですね、いつもはらはらして見ているんですけどね、やっぱり、私の好みと言いましょか、がっぷり組んでぐーっと押していくというところが一番やはり力強いというふうに思っております。ただ見ていると逆に土俵際まで押されてそこでパッと躲したりですね、意外とスキルがあるなど。技術があるんだな、お持ちなんだなというふうにも思っています。御本人の言葉を聞くと、あれですね。「勝手に体が動いた」という表現されたので、やっぱりそれだけしっかりと稽古をされて、体がもう反応するんだろうなということで、すごいなというふうに思います。がっぷり組んでぐぐぐっと押していくのは、すごく私としては好きなスタイルなんですけれども、でもいろいろなスタイルでとにかく勝つてですね、こういったお稽古というか、試合もできるのかと、1回1回みんなをわくわくさせてくれる、そういういろいろなスタイルもよろしいのではないかというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

空港についてなんですけれども、会議の中では、2,500メートルの滑走路を組んで国際線に備えるだけではなくて、国内線の便を増やしてはどうかといったような意見もあったと伺っているのですが、それについてはいかがお考えでしょうか。

知事

そうですね。国際線というのは、インバウンドが盛んな時でありますし、将来的にも県内・国内というよりは、海外の成長と言いますか、活力も取り込むという点では、やはりインバウンドといった国際的なものを目指しているわけなんですけれども。ただ国内も非常に、ローカル・トゥ・ローカルとかですね。あるいは、東京・大阪・名古屋と運航されていますけれども。札幌もですね。国内もできれば増やしていければと思っておりますけれども、ただ、羽田がいっぱいいっぱいだと聞いておりますし、国内でかなり競争状態であります。そこでもちろん勝ち抜かなきゃいけないということもあるんですけれども。そういったことも大事だけれども、やはり新しくですね、今回報道で私は目にしたのですが、庄内と佐賀でしたかね、そういう初めての運航もされるというようなことで、いろいろなローカル・トゥ・ローカルというようなこともね、どんどんと私はチャレンジして大いに取組んでいくのが望ましいかなというふうに思っています。

記者

この将来ビジョンに関しては、2,500メートルの滑走路ありきという考え方ではなくというところですか。

知事

将来ビジョンはそうですね。やはり空港というものを、核としてその地域がどういうふうな将来像を描くかという、そういうことだと思っておりますので、その将来像によって、たとえば国際都市にしていきたいというようなお考えがあれば、国際線とか、成田と結ぶとか、いろん

なことが出てくるかと思えますし、チャーター便を増やしたいとかですね、定期便やりたいとかいうことであれば、やはり滑走路延長ということになるんだと思うんですけど、まずその前に地域ビジョンを策定するということだと思っています。その地域の皆様がどういうふうにしていきたいか、空港を核としてね、どういう地域にしていきたいかというビジョンを、皆さんがしっかりと考えて、その共通の目標に向けてどうしていくかと。滑走路を、空港をどうしていくかということになるんだと思いますので、「ありき」ということではないと思いますけどね。

記者

ありがとうございます。NHKで最後に、先ほど知事もおっしゃっていたように、12月にもうすぐ入るということで、7月25日の豪雨の被災地も雪がそろそろ降ってくるかなと思うのですが、寒さ対策だったり、被災地の方々に何か支援というふうなものは県として考えられているのでしょうか。

知事

そうですね。はい。やはり、被災市町村の皆さんと一緒にあって、それは、被災者の皆さんに寄り添った支援をしていくということを考えていくということだと思っています。市町村の皆さんと話し合いをしながら、そしてニーズをお聞きしながらですね、しっかり対応して、できる限りの支援をしていければというふうに思っております。

記者

読売新聞の仲條です。よろしくお願ひします。

間もなく12月定例議会が始まるかと思うのですけれども、そちらでは代表質問が予定されています。聞くところによれば、当初予定されていた先生ではなくてですね、各会派の代表の方がですね、知事の5期目に向けた態度についてですね、質されるというふうにもお聞き及んでいます。

知事、先ほどがっぷり四つがお好きだというふうにおっしゃっていましたがけれども、どのようなプレースタイルで12月議会は臨まれるのでしょうか。あるいは小技を効かせるおつもりなのでしょうか。いかがでしょうか。

知事

そうですね、12月議会、目の前であります。明日明後日で11月も終わるというようなことで、師走が近いなということなんですけれども。やはり、代表質問・一般質問というふうにありますけれども、殊に代表質問が先に来ますので、質問いろいろされるかと思えますけれども、精一杯お答えをしまいたいというふうに思います。

記者

先日は前向きにというようなお話をされていたかと思うのですけれども、その代表質問に対

しても前向きな答弁をなされる御予定ということなんでしょうか。

知事

そうですね、まだ何も決まってははいないのですが、その代表質問の内容もまだわかりませんので、その内容を見てしっかり、がっぷり組みたいと。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

おはようございます。産経新聞の菊池です。

先の兵庫県知事選ですね、いわゆる既存メディアの、要するに選挙報道のあり方、もしくはSNSという新しい選挙活動のやり方、これは非常に注目されたんですけども、兵庫県知事選のあと最初に行われる、いわゆる知事選が1月にやってくるんですけども、知事が今のところ表明はされていないんですが、仮に出馬されるとしたらですね、SNSとその選挙活動、どのようにやっていかれるか、それとも客観的に選挙活動とSNSはこうあるべきだと、そういう考え方を教えていただきたいのですが。

知事

あまり仮定のことにはなかなかお答えしにくいなと思いますけど、ただ、やはりSNS発信というのでね、大変話題になりましたね。本当に全国から注目されて、その影響の大きさということ、ご本人もすごく大きな力だったというふうにおっしゃっていたような気がします。報道でしか知りませんが、だからやはり大きな力を持っているんだろうなというふうに思っていますけども。

そうですね、やはり多くの方々にいろいろなその考えをですね、聞いて、知っていただけるという利点もある一方で、やはり入ってくる情報しかないというような、そういうリスクもあるんじゃないかと思えますね。本当にいろいろな情報の中から自分で選び取るとか、そういうことでなく、やはり一方的に来たものをそのまま、例えば信じちゃうということになると、リスクも結構あるかなというふうに、私自身はやはりメリット・デメリット両方ある方法かなというふうには思っております。

ただ、時代的にやはり皆さんSNSをお使いであります。例えば県の情報として、例えば災害が起きた時のね、災害情報なんかもやはりこれまでと同じではなく、「SNS発信もしてね」というようなことも申し上げておりますし、多くの方に知っていただくというのでは非常に有意義なツールだなというふうに思っています。

私の選挙に関しては、まだなんとも、出るか出ないかまだ申し上げておりませんので、それについてはちょっとお答えしかねるかなというふうに思っています。

記者

使わないという選択もあるんでしょうか。SNSを選挙戦で使わないという選択もあるとお考えですか。これは一般論としてで結構なのですが。

知事

はい、あらゆるその方のお考えで、それは使わないという手段もあるかもしれませんね。でも大抵の方はお使いになっているんじゃないかと思えますけども。

記者

どうもありがとうございました。

記者

時事通信の海老沼です。よろしくお願いします。

すみません、先ほどの産経（新聞）さんの質問と関連というか、知事選を考えずとも、今知事の立場でもSNSを使って、例えばXでアカウントを使って普段の県政情報を発信されている方も多いと思うんですけども、知事としては知事選というその選挙を除いても、例えばそういう自ら何かアカウントを作って発信しようとか、最近のその流れを踏まえてだとか、そういったお考えについてはどうなんでしょうか。

知事

自分が発信するかどうかですね。県としては、いろいろな県の情報とか、魅力とか、観光とか、しっかり発信というようなことはやっておりますけれども、私自身ということになると、そうですね、ブログくらいですから、そんなに熱心なほうではないかなというふうに思っています。

実際に、現場主義、対話重視で、本当にいろいろなところに出向いて行って、いろいろな方のお話をお聞きするというのが、私としては非常に県政を進める上で大変役立つというふうに考えておりますので、自分で自分のことを発信するというのは、そんなに、正直今のところ考えていませんね。せいぜいブログくらいかなと思います。

記者

ありがとうございます。あと、空港の話に戻るんですけども、今、地域としてのビジョンについてまさに検討中というところだと思うんですが、すいません、お話もかぶっているかもしれないのですが、知事としては具体的には空港の利用についてどのようなビジョンを抱いているのかということと、インバウンドとかを見込んで（滑走路の）500メートル延長も検討されていると思うんですけども、これもちょっと私が勉強不足のところもあるんですが、500メートル延長以外にも、例えば仙台空港からの呼び込みを強化したりだとか、インバウンドの呼び込みの拡大というのはいろんな方法があると思うんですけども、その中で500メートル延長というところを重点的に検討されているのはどういった理由なのかなというのをあらた

めて伺えますでしょうか。

知事

はい。そうですね、仙台空港との連携と言いますか、仙台といっても東北、仙台から入ってね、そして山形へ来たり、秋田に行ったり岩手に行ったりというふうにな、東北一円にお客さんたちが、例えば観光客であったり、ビジネスであったり、そういうふうにご利用していると思うんですけども、やっぱり私が思うのは、東日本大震災の時に仙台空港がものすごく被災したんですよ。そして使えなくなったんですね。ああいうことがね、千年に一度というふうに言われた大震災でありましたけれども、津波が来て使えなくなった。ああいうことが実際に私たちが生きている時代に起きました。それを見ているわけでありますので、その代替空港として山形空港が活躍したんです。仙台空港が使えなくなった時に、外国の方々が山形空港から移動されたり、また、山形空港を利用して、消防であったり、自衛隊であったり、警察であったり、アメリカ軍も来ました。本当にだから防災拠点空港みたいな感じでしたね、今思うと。24時間体制で運用した空港です。

ですから、またああいうことが起きたりすると、今のままでは私は狭いと思っています。すぐそういうことがまた起きるということではないですけども、将来のためにもやはり、有事のためにやはりもっと広くしておくというのは大事でありますし、また、平時においても、その滑走路が短いゆえに「ちょっと行きにくいです」と、はっきりと台湾とかですね、シンガポールとかいろんなところで言われたことがありまして、やっぱり不利だなというふうには私自身思っております。

東北で2,500メートルの滑走路がないのは山形県だけです。もちろんほかの空港は2,500、3,000メートルありますので、ほかの空港と連携をしてですね、お互いにイン、アウト、イン、アウトというふうに関連しているいろんなことを今でもやっているかと思えますし、それはこれからもずっと取り組んでいくことが大事かなと思っておりますけれども、ただ、やはり有事のことも考えたり、それからやはりチャーターというのはまっすぐ行ったり来たりできるというのも非常にメリットが大きいんですね。実際にやってみて。ですからダイレクトに、ドア・ツー・ドアではないんですけども、県にとってのドア・ツー・ドアみたいなものですけども、そういったこともね、できないよりはできたほうが良いというふうに思います。

ただ、地域の皆さんがどういうふうを考えているかというようなこともやはりとても大事でありますので、皆様のお考えをお聞きしながら、丁寧に検討していければというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。以上です。

記者

河北新報の奥島です。よろしくお願ひします。

すいません、ちょっと話題は戻ってまたSNSのことで追加でお伺ひしたいんですけど、知

事はブログはやられているということで、かなり前からすごくマメに続けられているなと思うんですけども、これを続けている理由というか、発信の狙いみたいなのところはあるんでしょうか。

知事

そうですね、どなたが見てくれているかなと思うんですけど、私が公務で上京した時に、「見えます」と言われたことがあって、「ええ？」と思ってね、県外の人も見ているんだと思って、それならばPRしたほうがいいと思ひましてね、できるだけPRというような目線で私は、この景色がきれいだなとかですね、あと、この食べ物がおいしいとか、そういったことをわりと発信したいかなというふうに思っています。

記者

先ほど、それ以上の、Xとかでの発信はというお話もありましたけど、対話重視という点ではSNSも双方向のツールで一つのあり方だとは思うんですけども、例えば普段、知事はXとかInstagramとか見られたり、普段使っているようなツールはあたりするんでしょうか。

知事

いや、そうですね、日々の業務に忙殺されてあまり。正直、家に帰れば家のことがエンドレス、家事はエンドレスでありますから、そうですね、それに向き合ってそればかりやっているという時間はあまりないですね。

記者

わかりました。あと、すみません、最後の話題変わりました、あらためて空港の滑走路延長の話なんですけど、将来ビジョンの会議の中で、有識者の方からは費用対効果とか、どれくらい誘客効果があるのかとか、シミュレーションがないとなかなか意見を求められても検討のしようがないというような意見も出ていたのですが、多分県民からしても、いきなり事業費が出て、いきなり盛り上がり始めたような印象もあるのかなと思うのですが、このタイミングでオープンに動き出したというか、意見を有識者の方とかから聞いた理由というのはどういうところにあったのでしょうか。

知事

そうですね、私的には前からずっと山形県として、ハードのね、陸、海、空、私は東日本大震災の時に本当に痛感しました。道路、そして鉄路、港湾、空港ですね、空路。全部必要なんですよ、いざとなった時。そして平時でもやはり経済活動のために非常に重要なツールであります。本当にハードのインフラでありますので、やっぱりそこはね、山形県として弱いところ、脆弱なところはしっかりと強化していかなくちゃいけないというのが私のそもそもの原点です。

だから何かがあったから今回というようなことではなくて、ずっとそれは言ってきて、山形

空港の機能を強化したし、今は庄内空港の機能を強化しようとしている。さあ次は、というようになっているのかなというふうに思います。